

桐生市訪台事業（海外販路開拓支援事業）報告書

桐生市議会議長 森山 享大
経済建設委員長 人見 武男

1 期 間 平成30年10月1日（月）～10月4日（木）

2 訪問先 雲林県政府
雲林県企業1社

I 雲林県産業連携推進会議（雲林県政府）

- 1 名刺交換
- 2 出席者紹介
- 3 挨拶 雲林県 李 県長
桐生市 亀山 市長
森山 議長
津久井 商工会議所副会頭

4 雲林県紹介（ビデオ）

5 桐生市紹介（ビデオ）

津久井 商工会議所副会頭よりビジネスマッチングフェア桐生2018の紹介
森秀織物（株）長谷川 代表取締役、フジレース（株）丹羽 常務取締役、
アイプランニング（株）市川 代表取締役社長、（株）笠盛 笠原 氏
西工業（株）西 代表取締役社長より各々の会社の事業内容の説明

6 意見交換

今回の産業連携推進会議において、台湾とのビジネス交流機会の創出のため、2019年度のビジネスマッチングフェア桐生への参加を打診したところ、前向きに検討していただけるとのこと。また、産業連携の窓口について「財団法人資訊工業策進会」が窓口となり、台湾に出張が叶わない企業についてもビジネスマッチングをサポートすることを確認できた。

※財団法人資訊工業策進会は、台日産業連携推進オフィス（TJPO）の運営組織。



(雲林県産業連携推進会議)

II 台湾興隆毛巾（雲林県企業）

工場見学をした後、会社概要の説明をして頂いた。

興隆毛巾は台湾製造にこだわる老舗の紡績工場で、2005年に三角形のタオルケーキを販売してから人気となった。2008年に観光型の工場に転換し、2011年7月に直営店をオープンさせたとのことである。タオルの原料は輸入のコットンで、すべて雲林の工場生産。なかでも創作タオル類は人の手で一つ一つ折りたたんでいて、正にハンドメイドである。

説明の中で、品質面では日本のほうが上で、日本から学ぶものが、たくさんあるとのことであるが、様々な工夫を凝らしながらタオルのイメージを変えていく努力に感銘を受けた。



(雲林県企業：台湾興隆毛巾)

Ⅲ まとめ

桐生市は、これまで、雲林県諸都市との間で産業経済分野を核とした「友好連携に関する覚書」を平成 27 年度に締結し、その趣旨に基づき、産業交流を行ってきた。本市は、日本と台湾で毎年交互に産業連携推進会議を開催する一方、台北テキスタイルフェア参加をはじめ、市内企業と台湾企業とのビジネスマッチングの支援に力を注いできた。いわゆる「ビッグビジネス」につながっているわけではないが、一定の成果を上げている。

今後の成功の鍵は、市内事業者の「魅力ある商品」を継続的に P R していくことのみならず、両地域の「産業分野にとどまらない文化・教育・市民交流」など様々な形でその野を広げ、包括的な友好連携を進めていくことではないかと感じた。今回の訪問を通じて、様々なビジネスチャンスの可能性を感じる事ができた。

今後とも、市内企業への継続的な支援は必要であり、参加事業者・関係業界の皆様の声を議会としても拝聴しながら、これからもさらに連携を深めお互いに発展していかなければならないと感じた。